

びわこ成蹊スポーツ大学 開学11年、新たな発展に期待膨らむ

新学長に嘉田由紀子氏

嘉田由紀子氏(前滋賀県知事)が2014(平成26)年10月1日付でびわこ成蹊スポーツ大学の学長に就任されることが決まりました。

嘉田氏は、埼玉県立熊谷女子高等学校を卒業後、京都大学農学部に進み、卒業後は米国ウィスコンシン大学大学院に留学。京都大学大学院農学研究科に戻った後、同大博士号(農学)を取得されるなど、長年にわたって自然環境を中心とした研究に取り組んでこられました。また滋賀県の琵琶湖研究所、教育委員会事務局、琵琶湖博物館においても調査研究及びその実践に尽力されました。

6年間の大学教授としての勤務の後、周囲の多くの人に推されて滋賀県知事選に出馬し、見事当選され、2期8年にわたり県民の圧倒的な支持を受けながら県政に力を尽くされました。

知名度の高さはもちろん、教育及びスポーツ振興に対する熱意を持ち、また大学運営に対する識見を有するなど、学長としての魅力あふれる嘉田氏の就任により、びわこ成蹊スポーツ大学は新しい発展の局面に入ったと期待が膨らみます。



就任に寄せて 嘉田由紀子

びわこ成蹊スポーツ大学の学長としてご推挙いただき、大変大きな責任を感じております。過去8年にわたる滋賀県知事の経験、それ以前の大学教員や琵琶湖環境、地域社会の研究成果を生かして、大学運営に全力を尽くさせていただきたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

少子化時代の今、大学は「受験生を選ぶ時代」から「受験生に選ばれる時代」へと変わっています。そこで必要なのは、「この大学に入りたい」と受験生や保護者に選んでもらえるような際立つ個性と教育内容の充実や就職実績、そして社会的貢献などの存在感のあるオンリーワンのブランド化を目指すことです。そのために4つの戦略を提案させていただきます。

まず第1に、背中に比良山、前は琵琶湖という、その恵まれた自然と歴史・文化の豊かな立地です。日本だけでなく国際的にもこの美しい琵琶湖をのぞむ「びわこ湖畔大学」としてこれまで以上に立地を生かした教育、社会貢献活動の強化・発信が可能です。

2点目は、今の日本社会が求める積極的な人材教育、「アクティブ・ラーニング」で学生の満足度を高めることです。対話、討論、観察を重視し、思考力、判断力、表現力を育成する双方向の学びを推し進めていきます。特に現場でのフィールドワークを重視し、学校現場やスポーツ競技の場に飛び出し、そこで問題を発見・解決し、即戦力を身につけていく。学生のやる気、耐える力、生き抜く力、人間力を高め、スポーツ大学ならではの人材輩出の大学としてブランド化を図ります。

存在感ある オンリーワンの大学を目指して

3点目は、スポーツ大学として経済や文化まで、「裾野をひろげる多面性」です。これまでも「みるスポーツ」「するスポーツ」「支えるスポーツ」という3つの多面的視点からスポーツを捉えてきました。「スポーツをする」ことで心理的な満足度を高め、自身へのエンパワーメントを生み出すことができます。エンパワーメントという意味では文化活動とも連動します。「スポーツをみる」ことで集団の一体感や参加満足度を高め、組織価値につながります。「支える」という意味で、サポーターとのつながりを強



め、地域振興の舞台となり、経済的な連携も期待できます。

4点目は、「地域社会への貢献」です。2020年に計画されている東京オリンピック・パラリンピック、2021年の関西でのワールドマスターズ、2024年の二巡目滋賀国体などを見据えて、オリンピック事前合宿の誘致や国体運営では学生の選手としての参加はもちろん、ボランティア、インターンシップなどが求められ、教職員も運営に参加し、地域全体

が元気になるような貢献が可能です。大学設立時に滋賀県や大津市からいただいた期待やご支援に応えるためにも地域社会への貢献はこれまで以上に強化・発信していきたいと考えております。

大阪成蹊学園の理念「桃李不言下自成蹊」を生かして、芸術、経営、教育学など多彩な分野と協力しながら、総合大学のような強い連携も大いに期待できます。特に社会で活躍する女子教育を強化、拡大し、オンリーワンの存在感を示すことができるよう期待に胸を膨らませております。

発展する大阪成蹊学園



—創立80周年を迎えて—

本学園は1933(昭和8)年に高等成蹊女学校として発足して以来、多くの方々の温かいご支援とご協力により、2013(平成25)年度をもって、創立80周年を迎えました。2014年1月12日に開催された「学校法人大阪成蹊学園創立80周年記念式典」には、文部科学省の私学部長小松親次郎様、近隣13市町の教育長をはじめ、学園関係者総勢242人にお集まりいただきました。また式典に先立って、2013年11月24日には東京大学名誉教授の佐藤孝氏らを招いて教育シンポジウムを開催し、298人に参加いただき、同月30日に開いた「学校法人大阪成蹊学園創立80周年記念コンサート」には総勢359人にお越しいただきました。

本学園は、80年の歴史の中で、「桃李不言下自成蹊」の建学の精神を堅持しながら、変わりゆく時代の要請に常に応えるように、進化と適応を繰り返してきました。そして現在、多様な学校、学部、学科、コースの豊富な学びを備えた学園へ

と成長しました。真に人間力を持った人物を育てることを使命とし、日々改革を進めています。

80周年を機に、学園の更なる発展を目指して改革プランが進められています。まずは2014年度のエデュケーション部開設です。「教

育の成蹊」と呼ばれるほどの、長年の伝統とそれにより培った児童教育の強み・特色を生かし、大阪成蹊大学に教育学部を開設しました。そして本年度を「教育元年」と位置づけ、理事長・総長を議長とする「教学改革会議」を発足させ、全学的教育改革推進機関として「高等教育研究所」を設置しました。人間力育成を目指す教育改善を推進することを決定し、全ての授業において、双方向授業、集团的学習、PBLなどを実施する授業改善計画の提出や、授業改善に結びつける評価や手法の策定を全学的に取り組んでいます。その他にも、「こども教育研究所」「こども教育支援センター」「音楽教育支援センター」を設立しました。

研究所では、高等教育及び初等・幼児教育の研究促進、教育委員会との連携強化、両センターでは、学生の教育、実習支援や高校から短大、大学を縦断するピアノ技能の向上、教育実習校や保育実習園に対する支援を図ることなどを目的とし、大阪成蹊学園の教育・研究・社会貢献の充実を進めて、「教育の成蹊」の名声を一層高める取り組みを推進します。

さらに、2015年度より教育学部、芸術学部において20人ずつの入学定員増を行います。続いて、2016年度には、短期大学幼児教育学科の入学定員増を計画して

います。また、2018年度に向けて、大阪成蹊大学の大学院教育学研究科(仮称)の開設を構想しており、社会の期待と要請に応えていきます。

現在の学園状況の改善を導いた大きな要因に、教職協働体制の浸透があります。全学的に教職協働での取り組みに力を入れていますが、中でも就職支援、募集広報活動において顕著な成果を上げました。

また、これは教職協働体制の素地ができてきたことの表れでもあり、今後の教学などの改革においても大きな力となると考えています。

2010年より「学園ブランド力向上運動」を継続実施し、①あいさつの励行運動②身だしなみ向上運動③禁煙運動④校内美化運動⑤授業の遅刻・私語防止運動——に取り組んできました。その結果、各運動で効果が顕著に表れてきており、学園の新たな風土として根ざしつつあります。教職員と学生・生徒たちによるこうした運動の継続が、学園の新たな伝統を形成しつつあります。

学園100周年に向けて、次の90周年までの10年で、確実かつダイナミックに諸改革を推進し、北摂を中心とした地域教育・研究の中核としての役割を担えるよう発展していきます。



あいさつする
石井茂理事長



大阪成蹊大学

芸術学部

2013
年度

芸術学部卒業制作展 を開催しました



今年も本学南館において「大阪成蹊大学 芸術学部 卒業制作展」を開きました。第1期(2月19～23日)は情報デザイン学科のコミュニケーションデザインコースとイラストレーションコースの展示で、第2期(2月26日～3月2日)は美術学科の洋画・日本画・現代美術の各コースと環境デザイン学科のテキスタイル・ファッションデザイン、プロダクト・クラフトデザイン、空間インテリアデザインの各コースの展示を行いました。また、2月23日には本学図書館7F音楽ホールでファッションショーを開催しました。ショーも含めると2000人を超す多くの来場者を迎えました。

2013年度の3大受賞作を紹介しますと、学長賞はさまざまな飛び出す仕掛けを工夫して環境問題をやさしく問いかける絵本『4ひきのどうぶつたちとおおきなき』を制作した、イラストレーションコースの澄谷綾音さんが獲得しました。また、芸術学部長賞には幼稚園の子どもたちの安全を考えてデザインした『Mya-』というカモメの姿の背もたれのある小さな

椅子を制作したプロダクト・クラフトデザインコースの越野友加里さんが選ばれました。さらに教育振興会長賞は、うっそうと茂った森を抜けて吊り橋を渡ると明るく開けた未来へといざなう『橋の向こうに』を描いた日本画コースの房拓弥君に決まりました。この他にも数多くの秀作、力作が並びました。

さらにファッションショーでは、芸術学部のテキスタイル・ファッションデザインらしく、手織りの布やオリジナルプリントなどを使ったユニークな作品が登場し、またミュージカルの一場面を思わせるようなショーを繰り広げた最終作品には、観客から拍手が鳴りやみませんでした。

学生たちにとっては、大学生活を締めくくる最後の発表の場であり、また社会へと飛び出していくための最初の晴れ舞台となりました。

【写真】①テキスタイル・ファッション作品②澄谷綾音さんの絵本③越野友加里さんの椅子作品④美術展示会場風景

NEW!

新しい客員教授を迎えました

世界のゲーム・トップクリエイター

稲船敬二客員教授



我が国を代表するゲームクリエイターでキャラクターデザイナーでもある稲船敬二氏が、2014年度から芸術学部の客員教授として着任されました。

稲船先生は大阪府岸和田市の出身で、株式会社カプコンに入社され『ストリートファイター』(1987)が初仕事。その後、『ロックマンシリーズ』などのキャラクターデザインで一躍有名になりました。また、『バイオハザードシリーズ』、『鬼武者シリーズ』、『モンスターハンターシリーズ』、『デッドラ

イジングシリーズ』など、数々のミリオンセラーのゲーム・プロデューサーとして、また世界のトップクリエイターとして活躍されています。

カプコン退社後はフリーランスのクリエイターとしてゲームのみならずさまざまなメディアで活躍されており、とりわけ「稲船塾」を主宰し、次世代のクリエイターを育成する、使命と情熱にあふれる教育者でもあります。

本学のマンガやアニメーションなどエンターテインメント系のコースで、学生の中から有能なクリエイターを発掘し、育成していくのが楽しみだと話しておられます。

受講生たちがゲーム制作を中心に、多様なメディア・コンテンツ企画やプロデュースの実際を先生から学び、ユニークな発想力や豊かな企画力を身につけてくれることを大いに期待しています。



大阪成蹊大学

マネジメント学部

スポーツビジネスコース

公開講座開催

6月15日、大阪成蹊大学マネジメント学部スポーツビジネスコースで、公開講座「FIFAワールドカップを見ながら、スポーツビジネスを読みとる」を開きました。

当日はワールドカップ予選リーグ「日本VSコートジボワール」の試合をVT-Rで見ながら、本学スポーツビジネスコース主任でサッカー解説などでおなじみの上田滋夢教授とプロサッカーチームでの指導経験をもつ松山博明准教授の2人が、試合分析を行いました。

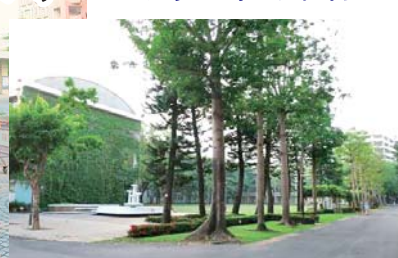


300人を超える参加者の皆さんからは「いろいろな角度から試合を観ることができたのでおもしろかった」「リラックス法やメンタルに関することなど、参考になることがたくさんあった」などといった声が聞かれ、有意義なイベントとなりました。

NEW!

観光ビジネスコース

台南應用科技大學へ海外研修



観光ビジネスコースは、国際交流協定校である台南應用科技大學(台湾台南市)への海外研修を予定しています。同校は、大学、短大、日本の高校にあたる年からの7年間一貫教育、そして幼稚園があり、現在約1万3000人が在籍しています。大学には、生活科技学部、マネジメント学部、デザイン学部、芸術学部、旅遊学部の5つの学部があります。台湾でも、著しく成長する観光ビジネスは重視されており、2013年に観光を学ぶ旅遊学部が新設されました。

旅遊学部には、4学科(応用英語、ホテル・マネジメント、ホスピタリティ・マネジメント、ヘルス&レジャー・マネジメント)があります。ホテル・マネジメントにはキャンパス内に本格的宿泊トレーニング施設、ヘルス&レジャー・マネジメントにはスパ施設やレストランがあり、学生が実務を学んでいます。

同校のある台南市は、古都の面影を感じる町です。キャンパスは市内から車で約25分の場所にあり、とても環境の良い大学です。

観光ビジネスコースでは、1年次に全員参加の海外研修を実施します。台湾で観光を学ぶ同校学生との交流は、互いに刺激し合い、広い視野を持ったグローバルな学びを得ることができると考えています。交流を通して本学生が、夢の実現や希望の心に灯をともしてくれることを期待し、準備を進めています。



【写真】①台南應用科技大學正門と緑あふれるキャンパス②本格的な宿泊トレーニング施設③スパ担当の学生④⑤ホテル担当の学生

食ビジネスコース

アイデア満載 売り場提案

食ビジネスコースでは、2年生を対象とした専門演習1および3年生のコース学習として、大阪府中央卸売市場と連携し、小売業における売り場提案を行っています。今年度は福島県から「青果物の販売促進」という課題が出されました。

4月15日には食品スーパーマーケットの評価を行っている(株)企画より、消費者から見た良い売り場や買い物をしやすい陳列方法やレジ対応について講義がありました。また、4月22日には福島県大阪事務所、JA全農福島より「福島県の青果物の現状と課題」というテーマで講

義が行われました。

それを元に企画書を書き上げ、6月17日には6チームのプレゼンテーションが行われました。野菜のおいしさに注目したもの、安全性をわかりやすく伝えたもの、福島県の皆さんを力づけるものなど、アイデアあふれる企画が出そろいました。

そして7月13日のフードフェスタで実際に売り場を作り、参加者による「買いたい売り場」コンテストを行いました。2年生のSBC7チームの「福島の恵み」と題し、企画した売り場が一番多くの支持を得ることができました。



大阪成蹊大学

教育学部

「先生になる」 夢に向けてスタート



●教育学部1期生 学びの姿を紹介●

121人の1期生を迎え、教育学部がいよいよ第一歩を踏み出しました。「先生になる」夢を胸に入学してきた1期生たち。その学びの姿と“声”を通して、教育学部の特長をお伝えします。

1 実技・実習・講義のバランスのよいカリキュラム

1年次前期の主な時間割は、「体育実技Ⅰ」「ピアノ実技Ⅰ」などの実技と、「子どもとワーク」「情報リテラシー」などの実習、「教育学」「日本国憲法」などの講義がバランスよく配置されています。ここで学ぶ内容は、いずれも「先生になる」夢に直結するものです。学生たちは、頭と身体と感性を存分に働かせて、大学での充実した学びを重ねています。



2 自ら考え、仲間と共に学び合う

教育学部では、学生が主体的に学び、自ら考え、表現する力を育てることを大切にしています。そのため、「入学準備・

教育プログラム」の時点から、グループワーク（「教育学部で学ぶ私の“強み”と課題」）に取り組み、“自分で考え、仲間と話し合い、学び合う”活動を重ねています。また、入学後は、新聞記事から教育問題に関する情報を集めたり、大学図書館を活用して必要な文献を読んだりなど、「知」を活用した質の高い学びを系統的に重ねています。「難しいけれど、勉強がおもしろくなってきた」という声も寄せられています。

3 未来を拓く学び「エクステンション」

夢をかなえるためには、教員採用試験に向けた準備を今から着々と進めていかなければなりません。教育学部では、“キャリア支援”として、正規の授業に組み込む形で、教職に関する内容を学修しています。

さらにそれと並行して、学生自らが主体的に取り組む自学・自習を支援しています。この時間には、教員が内容や教材などを提供し、学生自らが目的意識をもって系統的かつ効率的に学修が進められるようにしています。授業の空き時間を活用した「エクステンション」に参加することで仲間と共に自学自習の習慣を身につけ、卒業後の希望進路を実現させる力と気概を身につけてほしいと願っています。



4 主体性を伸ばすプロジェクト活動

教育現場で活躍するためには、同僚と協働しつつ、積極的に個性や特技を生かしていく姿勢が求められます。教育学部では、「音楽」「図工」「体育」「キャンパスライフ」など、7つのプロジェクトをクラス横断的に組織して入学直後から活動を続けています。

各プロジェクトでは、担当教員の助言を受けながら、学生たちが自らの創意工夫で活動内容を決め、昼休みや放課後の時間に集まって活動しています。その成果は、6月に実施した「フレッシューズキャンプ」(宿泊研修)での活動やスポーツフェスティバル、音楽会など自主企画として活動・発表する予定です。学生は「クラス以外の友達ができて楽しい」「自分の特技を生かすことができうれしい」など、楽しみながらも教員に必要な実践力の大切さを実感しているようです。

5 生き生きとした学生生活

緑の芝生の明るい広場「サンパティオ」、学生レストランのテーブル席や戸外

のベンチなど、学生たちはそれぞれ“お気に入り”の場所を見つけて、友達とおしゃべりしたり、くつろいだりして、楽しい学生生活を送っています。

教育学部では、30人程度の少人数クラスにチューター1人とサブチューター2人がついて、学修や学生生活全般の指導を行っています。このため、「友達、先生との距離が近くて仲良くなりやすい」雰囲気生まれているようです。また、「同じ夢を持った人たちなので、話が合う」ことも友達ができる好条件のようです。

「先生になる」夢の実現に向けて、1期生たちの大学生活がますます充実したものになることを期待するとともに、彼らの成長を信じ、教員一同、持てる力すべてを惜しみなく注いでいきます。



こども教育支援センター

NEW!

こども教育支援センターが始動 教育・保育実習のさらなる充実を

大阪成蹊大学に教育学部が設置されたことに伴い、既存の学部・学科の実習と併せて、より充実した教育・保育実習を目指し、この4月から「こども教育支援センター」が始動しました。ここでは、主に次のような業務を担っています。

主な業務内容

- 大学、短期大学の教育実習、保育所実習、施設実習、介護等体験先の開拓、及び情報の一元管理
- 各実習に関する公文書、依頼書、実習内容等の事務的な処理
- 各実習のスケジュール管理
- 各実習先との連絡・調整
- 各教育委員会との連携及び関係強化
- 個人情報の保護及び各書類の整理・保管

600人以上が履修する短大の実習に加え、大学の教育学部の実習が始まりますと、その事務量は膨大になりますが、センター長を含む5人のスタッフで、業務を分担し、滞りなく実習が進められるよう、尽力しています。

「教員になろう!」「保育士になろう!」

という夢と希望を持って入学してきた学生の皆さんが、ますますその思いを高揚させ、夢を実現できるように、新たな実習先も確保し、真摯に学べる場を提供していきます。

今後は、各学部・学科の先生との連携を深め、実習にかかわる課題を解決しながら、「めざす教員像・保育士像」を共有し、教員養成カリキュラム編成にもかわっていきたく考えています。

そして、実践力と人間力のある教員や保育士をこの大阪成蹊学園から一人でも多く教育界に送り出し、学生の皆さんの夢をかなえるための一助を果たすことができたらと思います。



音楽教育支援センター



NEW!

高校から大学まで 一貫した音楽教育を支援

ピアノ教育を サポートします

現在大阪成蹊学園では、大学教育学部、短期大学児童教育学科、高校幼児教育コースで合わせて総数1131人の学生がピアノを学んでいます。高校から短大、大学までの一貫したピアノ教育を支援するため2014年4月から新しく音楽教育支援センターが設立されました。

センターには6人の主任研究員が常駐して、大学、短大、高校のピアノ授業を担当しています。短大、高校での従来の個人レッスンに加え、教育学部と高校1年生のクラスではピアノの集団授業という新しい取り組みを始めました。そのほか短大ピアノ教育に関する庶務事項や、保育の現場ですぐに役立つ弾き歌いの教材作成、新しいグレード制度の検討、図書館棟7階ホールでのコンサート企画など学園内のピアノ教育に関すること全般を担当します。

そしてコンサート企画の第1弾として11月28日、「モーツァルトの夕べ」と題して、小編成のオーケストラでピアノコンチェルトとオペラアリアの名曲をお届けします(18時開演予定)。

また、図書館2階レセプションルームで7月8日の昼休みにランチタイム10分コンサートを行いました。音楽教育支援センター6人の研究員による「ピアノ連弾～バイエルからルパン三世まで～」を企画し、たくさんの方にお越しいただきました。

将来、教員や保育士として現場に立ったとき、自信を持ってピアノを弾き、保育に役立てるために、今すべきことは何かを学生の皆さんと共に考え、よりよい授業を実施できるように努めます。ピアノを勉強することについて疑問や相談などがあれば、図書館棟3階ラウンジの隣にある音楽教育支援センターの研究室をお訪ねください。



大阪成蹊短期大学

新しいシンボルマーク決定 応募総数74点！



学園創立80周年を記念して、大阪成蹊短期大学のシンボルマークを新たに作成しました。送付物・イベント・短大関係のグッズなどに使用し、短期大学の一層のイメージ向上を図る目的でコンテストを行い、選出されたものです。すでに短大のさまざまな刊行物などで使われています。

昨年末からの約1カ月半の募集期間に、総数74点の応募がありました。学長および美術系教員4人(芸術学部門脇英純教授、短大塩見知利教授、紺谷武講師、伊東義輝講師)による審査委員会で、最優秀賞1点、優秀賞3点が選出され、最優秀賞の濱口タ貴子さんの作品がシンボルマークに決定されました。

シンボルマークは建学の精神「桃李不言下自成蹊」に示されている桃を表し、未来に向かって躍進するイメージと新しい世紀への教育理念を表現しています。上部の5つの丸印は、雄蕊の葯をイメージするとともに、短大の5学科を象徴しています。柔らかな曲線と縦に伸びる線とで、学生たちが夢を膨らませ、豊かな社会をはぐくむイメージが表現されています。

最優秀賞	濱口タ貴子(大阪成蹊大学芸術学部 情報デザイン学科)
優秀賞	豊田 陽広(大阪成蹊大学芸術学部 情報デザイン学科)
	敷山 大起(大阪成蹊大学芸術学部 情報デザイン学科)
	長澤 直子(大阪成蹊短期大学 経営会計学科教員)

栄養コース&食物コース

卒業作品展開催

1月24日に栄養コース、食物コースのそれぞれの学びの専門性を生かした卒業作品展を開きました。500人を超える来場者があり、大盛況となりました。

栄養コース

成長を感じる作品展



栄養コースの卒業作品展では、2年間の集大成として2回生がライフステージ別の料理とワンポイントアドバイスを展示しました。また、栄養教育用教材として、「外食の栄養早わかりツール！」をフェルトで作成しました。

1回生は、1年間取り組んできた「弁

当の日」の仕上げとしてコンペを行いました。

また、大阪府中央卸売市場共催による「ゆりね&れんこん料理レシピコンテスト」を実施しました。いずれも力作ぞろいで、1年および2年間の成長と成果が表れていました。

調理クラス



半年間に及ぶ共同制作、ついにお披露目！

2年間の学びの集大成として展示料理の制作を行いました。学生自身がテーマを決め、献立も自分たちで細かなところまで考えます。和と洋あわせて24作品、今年は2～3人での共同制作でした。互いに意見を交換し、一つの作品を練り上

げていく——原案の作成からはほぼ半年間に及ぶ制作過程は、学生たちの料理への思いをさらに熱くしてくれました。来場者投票による最優秀賞は「秋の彩り」＝写真右＝でした。

フードコーディネートクラス



テーブルコーディネートで「世界遺産」表現

フードコーディネートクラスでは「世界遺産」をメインテーマとして、国内外



の世界遺産をイメージしたテーブルコーディネートで13作品展示発表しました。

料理のメニュー、テーブルウェア、食空間の演出まですべて学生自身が考えて決め、実際に料理も展示しました。

どの学生も2年間で学んだ学習の成果を存分に発揮し、納得のいく作品ができました。フードコーディネートクラスの学びの特性を生かした卒業作品展になりました。

生活デザインコース

①グランプリ作品 テーマ「Light and Shade」
②準グランプリ作品 テーマ「大学教授」



枠を超え 学園がつながったファッションショー

2月11日にT・Bホール(大阪市中央区東心斎橋)で、第3回卒業製作ファッションショーを開催しました。立ち見席も出る中、大盛況でショーを終えることができました。

アパレルデザインクラスには、授業科目に「創作研究」がありますが、毎年、その成果をファッションショーという形で発表しています。今年のテーマは「Various Colors」で、いろいろな色や形を表現

してみました。芸術学部の有志の学生が、ファッションショーのコンセプトを演出するため映像を製作してくれました。モデルやスタッフは、ファッションコーディネートクラスの学生や1回生の協力のもと、学年やクラスを超えての体制となり、学生同士の交流の機会としても有意義なものとなりました。グランプリ、準グランプリのみならず、どの作品も個性あふれる素晴らしいものに仕上がりました。

子どもたちによる かわいいファッションショー



生活デザインコースの目玉の授業として「デザイン特論」があります。グループでファッションブランドの企画、製作を行うものですが、この授業での優秀作品についても紹介しました。

これらのメインテーマに加え、こみち幼稚園の園児たちにモデルとなってもらい、子ども服ファッションショーを行いました。今回は、童話でおなじみのモリス・センダック作の「かいじゅうたちのいるところ」の世界観を大切にしながらデザインした子ども服を紹介しました。リハーサルでは、慣れない舞台でどうなるかと思いましたが、子どもの吸収力は早く、本番のランウェイでは、楽しそうに衣装を披露し、手を振る姿に観客も癒やされていました。

恒例となったファッションショーは、学生の学びの成果を結集できる素晴らしい場です。しかしそれだけではなく、生活デザインコースの1・2回生やスタッフ、こみち幼稚園、大学芸術学部、教職員との協力のもと、学園全体のつながりの場でもあり、例年その成果が上がっていると感じます。今後入学予定の生徒や

第3回 ファッションデザイン画 コンテスト開催



デザイン画コンテスト グランプリ作品

毎年7月から9月にかけて、高校生を対象に開催しているファッションデザイン画コンテストの表彰式が同会場で行われました。

今年のテーマは「私の世界」で、全国から総数147人の応募がありました。今年は北海道の高校生の作品がグランプリとなり、砂漠で肌を出したくない人がおしゃれに着こなせるように、ふわふわしたクラゲをイメージして描いたという作品です。砂漠の民族衣装のイメージとクラゲのシルエットをうまく融合させて、テーマをしっかりと表現しているところが評価されました。

一般の方も多く来場され、この成果を見ていただけると幸いです。今年度の卒業コレクションは、2015年2月11日に行う予定です。皆さんのあたたかいご支援に感謝するとともに、より一層、進化したショーをお見せできるように、生活デザインコース一同の力を結集して頑張っていきたいと思います。



びわこ成蹊スポーツ大学



なでしこひろば in びわこ

4月30日、びわこ成蹊スポーツ大学マルチアリーナで「なでしこひろばinびわこ」を開きました。本学での開催は2回目で、女子学生を対象に「Enjoy! フットサル!」をテーマに、ボールゲームの楽しさを体感できるゲームを中心としたプログラムを展開しました。当初の予定募集定員を超える50人強が参加し、和気あいあいとした雰囲気の中、ボールを通じたコミュニケーションやチームワークの重要性について、身をもって体験。当日は、本学サッカー部監督の望月聡教授(前サッカー日本女子代表コーチ)も特別講師として参加し、ワンポイントコーチングをはじめ、実際に模範プレーを示しながら、なでしこたちとともに汗を流しました。

イベントは、日本サッカー協会の「なでしこビジョン」に賛同した本学が、女子サッカー普及活動の一環として不定期

に開催。また、スポーツビジネス演習(吉倉ゼミ)におけるスポーツイベントマネジメントに関する実務実習の機会としても位置づけており、講義で学習した体系的理論を実際に生かす場として、企画立案、運営、広報PRなどすべて学生だけで運営しています。今後も、女子サッカーの普及や女子アスリートの育成を目指すとともに、地域貢献活動の一環としても継続的に開催していく予定です。

詳しくは、JFAなでしこひろばHP (<http://nadeshikohiroba.jp>)。



スポーツ開発・支援センターより



春の公開講座

びわスポ古武術教室

【古武術】とは聞き慣れない言葉ですが、2002年の桑田真澄投手(当時巨人軍)の復活に、大きな影響を及ぼし注目を浴びました。今回講師を務めた高橋佳三准教授(研究分野: スポーツバイオメカニクス・古武術)は、2003年から古武術を学び、各地で講習を行っています。

この教室は、地域の皆さんを対象として、5月から7月の毎月1回、計3回、堅田イトマンスポーツクラブ(会場無償提供)で、「古武術的な身体の動かし方」からスポーツのパフォーマンスアップ、けが防止、日常生活での活用法などにつながる動きを学びます。

5月の参加者からは、「少しの動きで、力の加わり方が違うのは驚きました、次回も楽しみにしています」などの声が寄せられました。

写真は、肩甲骨の動かし方を指導している様子
【5月22日(日)会場: 堅田イトマンスポーツクラブ】
参加者225人

台風被害のフィリピンへ靴の支援

フィリピンでは、昨年11月に台風30号の直撃を受け、大きな被害を受けました。

私の元同僚が、青年海外協力隊としてフィリピンに派遣されていた経緯があり、彼女は支援活動を続けていました。私のところにも「何か協力を」との連絡が入りました。ちょうどそのころ、例年、年度末に卒業していった学生のシューズが処分されていることを聞き、これを役立ててもらうことができないか考えたのです。

以前にフィリピンを訪れた時、雨の中、裸足でサッカーに興じている子どもたちの姿も目に焼き付いていました。学生課に確認し、シューズを保管しておいても

らい、4月の半ばを過ぎ、シューズの引き取り手もなかったので送付することになりました。何百とある中、履けそうなものを選び箱詰めを、と考えましたが大変な作業です。そこで、サッカー部に相談したところ快く引き受けてくれ、整理をし、丁寧に箱詰めしてくれました。シューズは約200足あり、早速、被害の大きかったレイテ島に向けて送られました。

台風被害の復興とともに、子どもたちが贈られたシューズを履いて楽しくサッカーやスポーツをできる日が早く訪れることを祈っています。

学校スポーツコース
准教授 谷川 尚己



競技スポーツ学科3年の矢田統揮さんが、NHK大津放送局のFM番組「FMおうみi」で4月から学生DJを務めています。



います。

この春から、滋賀県内の立命館大学など他の3校の学生とともに起用されました。「若い感性を生かして魅力的な情報を届ける」というコンセプトに合わせて、自らが選んだテーマを取材し、番組で紹介しています。第1回目では若吉教授に「びわスポキッズプログラム」について取材しました。

生番組で、NHKアナウンサーとの掛け合い。番組を仕切り、リクエスト曲や投稿者のエピソードを紹介するなど、本格的なものです。矢田さんは「まさか自分がラジオのDJをやるとは思ってもみませんでした。この活動を通して、自分を磨いていきたいし、リスナーの皆さんにより良いものを届けたい」と話しています。番組担当は2カ月に1回の割合で、来年3月まで続けられます。

びわスポキッズフェスティバル

in 安曇川

5月24日、今年度最初の「びわスポキッズフェスティバル」を安曇川スポーツセンターで開きました。年中から小学校3年生までの幼児・児童105人が参加しました。年齢ごとに5つのグループに分かれ、各年齢における90分程度の最適運動(遊び)プログラムを大学生キッズリーダーが考え、指導を行いました。

プログラム中はもちろん、プログラム前後も大学生キッズリーダーとともに元気な笑顔と大きな声で走り回る姿が見られました。また、子どもたちの楽しそうな姿を見ていた保護者の方々も笑顔が絶えず、実施後のアンケートにも、「とっても楽しそうでした」などと好印象の感想をいただきました。





大阪成蹊女子高等学校

ますます充実のICT環境

大阪府の学校経営支援事業 私立高校で唯一選定



学校経営支援事業は、大阪府の教育振興基本計画を踏まえ、特色ある学校経営を推進し、高い効果が期待できる事業計画を提案する府立と私立の高校に対し、予算措置を行うものです。

この事業に、大阪成蹊女子高等学校はキャリア教育の推進と漢字検定・英語検

定・秘書検定などをはじめとする各種の資格検定の推奨を図るためICTを活用した事業計画案を提出し、一次審査での書類選考・二次審査のプレゼン選考を経て、応募したおよそ100校の中から見事に選ばれました。本校は私立高校として唯一の決定校です。

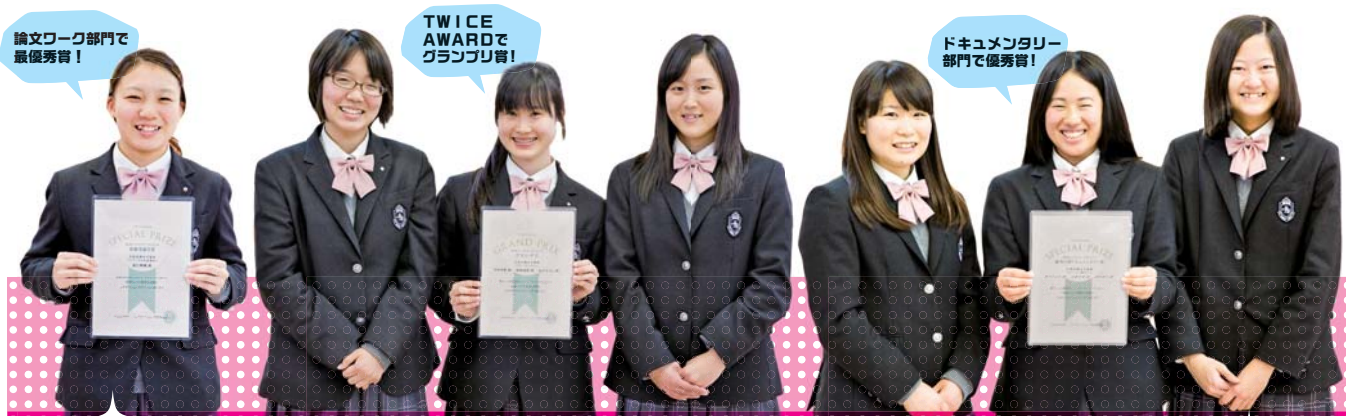
この事業により、大阪府から700万円の給付を受けて、タブレット型パソコンを1教室分(40台)、電子黒板とプリンターセット2台、各教室に設置するロール式スクリーン42教室分、5階のプラムホールに設置する固定式液晶プロジェクター、図書室に置く検定対策本、LAN教室用の対策ソフトウェアなどを購入し、本校のICT環境を更に充実させることができます。本校ではすでに他校にない充実したパソコン教室を完備していますが、今回の事業決定によりますます充実したICT環境を整えることになりました。

なお、本校には、電子黒板を使って授業を行いたい、iPadなどタブレットパソコンで授業を行いたいという積極的な教員が多く、各種検定の合格者を増やすことはもとより、本校の教育力のますますの向上にICT機器の活用がいつそう期待できます。

大阪成蹊女子高等学校の ファミリー制度のお知らせ

本校をはじめ学園の大阪成蹊大学・びわこ成蹊スポーツ大学・大阪成蹊短期大学を卒業または在籍される皆さまの子女及び妹が大阪成蹊女子高等学校に入学される場合は、入学金(20万円)の半額を免除するファミリー制度を2015年度より開始します。

現在、本校は府内の女子校では最大規模を誇り、受験者数もここ数年女子校でナンバーワンです。高い人気を維持しており、府内全域はもとより近隣府県からも多数の生徒が集まっています。現在、大学・短大を含む学園全体で学生数が増えており、学園が勢いづく中で、学園のロイヤリティを高めたいと考え、新たなファミリー制度を制定しました。ぜひ、学園の皆さま、関係者の皆さま方に、本制度のご理解をお願いいたします。



全国キャリア教育実践大会グランプリ賞を受賞

大阪成蹊女子高等学校のキャリア教育は7年目を迎え、教員たちの努力により充実した教育内容を誇っています。昨年



度から「女子に特化したキャリア教育」を教育の柱として前面に出して、大阪府でのモデル校として長年指定を受けるとともに、全国的にも知名度がますます高くなっています。

そして、2013年度のキャリア教育の実践では、東京での全国大会で見事グランプリ賞を受賞。キャリア特進コースの1年生チーム3人が、全国343チーム2540人の頂点であるTWICE AWARDのグランプリ賞に輝きました。

同大会の部門別では論文ワーク部門でキャリア進学コースの2年生が最優秀賞を受賞。ドキュメンタリー部門でもキャリア特進コースの1年生3人も優秀賞。

また、企業インターンワーク部門でも、キャリア進学コースの3年生4人が奨励賞に選ばれました。

これらの賞は、TWICE PLANという学習プログラムをもとに、生徒たちがどのように成長したかという点を主眼に置いて審査されるもの。本校のキャリア教育では、TWICE PLANを授業に取り入れ、生徒たち一人ひとりが自立した女性として立派に成長しています。

なお、2014年度から、すべてのコースでキャリア教育を実践しており、1年生全員がキャリア教育の科目「キャリアデザインα」を履修しています。

在校生が 大・活・躍！

★3年生：竹中そらさん



第10回関西選抜少年少女空手道選手権大会で優勝、3連覇を達成しました。素晴らしい努力家です。

★3年生：稲熊小夏さん



オランダ・アルメアで開催された第7回WBTF(世界バトントワリング連合)インターナショナル大会の個人種目で見事優勝。世界チャンピオンになりました。

★3年生：白石加奈子さん 高山あかりさん



アメリカ・ロサンゼルスで開催された、チア&ダンスの世界大会であるJAMFES USファイナルにチームで出場し、オープンダンス部門で優勝しました。



スポーツ& カルチャーセンター

吹奏楽部：高校

大阪成蹊女子高等学校吹奏楽部は今年度20人の新入部員を迎え、総勢51人となりました。「去年より素敵な演奏をしたい」という部員の熱い思いをかなえるべく、日々の努力に加え、コーチを招へい。作曲家でもあり演奏家でもある朴守賢氏の指導で、成蹊サウンドを磨いています。その結果朴先生の指導のもと、第53回大阪府吹奏楽コンクール北地区大会で金賞を受賞し、大阪府大会への出場が決定しました。

また、校外での演奏にも積極的に参加しています。恒例となった「大阪マラソン沿道応援 ランナー盛り上げ隊」や「マスターズ甲子園」は、たくさんの方々に成蹊サウンドをお届けできるチャンスです。

これからも吹奏楽部の演奏を聴いて、成蹊に興味を持ってくださる皆さんが増えてくれるよう、ますます発展していきたいと考えています。

NEW!

バドミントン部：大学&高校

バドミントン部スタート 高校・大学一貫指導が可能に

スポーツ&カルチャーセンターとして、5つ目の強化指定クラブ・バドミントン部が来年度春誕生します。

充実した練習環境のもと、これまでなかった学内での高校・大学一貫指導が可能になり、また、地域ジュニアスポーツクラブとの連携で理想としていたジュニアから大学までの一貫指導体制が完成します。地元大阪・北摂でオリンピック選手を輩出する素晴らしい指導実績を誇る指導者も迎え、期待を込めての門出となります。

この素晴らしい環境とサポート体制のもと、2020年の東京オリンピックの代表選手育成を目指して、日々まい進していきたいと意気込んでいます。

スポーツ&カルチャーセンターでは、一流専門スタッフの指導により、クラブ活動を強化しています。来年度春に誕生するバドミントン部をはじめ、数あるクラブの中から、一部をご紹介します！

コーラス部：大学&高校

1月に箕面市立メイプルホールで行われた第13回大阪ヴォーカルアンサンブルコンテスト・青少年部門で、昨年に引き続き金賞を受賞しました。

6月に大阪府合唱祭、11月に音楽の森・合唱フェスティバルなどいろいろなイベントに出演する予定で、今後ますます活動の幅を広げていきます。



バトン部：大学



本格始動1年目から全国大会出場者が出るなど、活躍を見せています。

最後まであきらめずにやり遂げる前に、自らの限界を自分で判断する選手が多い中、目標に向かって、努力し続けることを大切に取り組んでいきたいと思っています。バトンや大学生活の中で、多くの喜び、感動を共有し、人間的な成長を図れればと思います。



大阪成蹊短期大学附属

こみち幼稚園



やさいが
たくさん
とれたよ！



「強く 明るく 考える子ども」、これがこみち幼稚園の教育目標です。今年度より園長に就任し、「子どもたちが中心」をモットーに質の高い保育を目指しています。

強くとは、心も体も健康であること。明るくとは、生き生きと弾み子どもらしいこと。考えるとは、さまざまなことに興味や関心をもち、自分からかかわったり探究したりしようとする——と捉え、この子ども像を目標に日々の教育活動に取り組んでいます。

さらに年齢別の目標として、3歳児は、喜んで幼稚園へ来る子ども。4歳児は友達と仲よく遊ぶ子ども。5歳児はいっぱい遊びや仕事をする子ども——と、それぞれの年齢にふさわしく、最も大切と考える育ちの姿を掲げています。子どもたちは幼稚園で先生や友達と一緒に、大好きな遊びを心ゆくまで楽しみ生活することを通して、幼児期に必要な経験を重ねています。

新年度が始まって、4カ月がたちました。この間の子どもたちの姿を振り返ると、新入児・進級児ともに、それぞれの不安と緊張と期待の入り混じった日々であったことが見て取れます。新入園の3歳児は、家庭から幼稚園という社会への大きな第一歩を踏み出しました。この感覚は、大人に置き換えると“たった一人で、一度も行ったことのない遠い外国に旅する時の気持ち”と同じだそうです。そう思うと「お母さんがいい。帰りたい」と泣きくなる心情が理解できます。泣いたり、怒ったり、緊張で動けなかったり、また逆に思うがままに動いたり、さまざまな表現で自分の気持ちを先生にぶつけてい

ました。4歳児は少し慣れてはいるものの、新しい先生や友達との出会い、保育室も変わったことで、やはり戸惑いは隠せない様子。慣れた先生、友達のことをふと思うと寂しさも感じていたようでした。5歳児は一番大きいお兄さん・お姉さんになった喜びとともに、3・4歳児の世話をするという役割も担うようになりました。しかし年長組になったといっても、つい3週間ほど前までは年中組だった子どもです。急に年長児の自覚が芽生えるわけではありません。自

先生大好き

～心と心がつながって～

分のことで精一杯な中、張り切って世話をしたい自分と、責任の重さに押し潰されそうになる自分との間で葛藤する姿もありました。

月日は流れ、最近の子どもたちの様子を見ると、3歳児は朝、登園すると「おはようございます」と年長児に手を引かれながらも、自分から元気にあいさつをするようになってきました。そして何より、担任の先生が大好きになり、先生の姿が見えなくなると一生懸命に捜しているのです。担任を見つけ先生の用がすむまでじっと待ち、「〇〇ちゃん、待っていてくれてありがとう。一緒に行こうね」と先生から言葉をかけられ、手をつないだ時のうれしそうな、幸せそうな顔は、お母さんと手をつなぐ時と同じ

です。4・5歳児も同様に、担任とのつながりがしっかりと結ばれてきています。

園庭での体操の際に、「隣の友達と手が当たらないように広がりましょう」という言葉を聞いて、子どもたちは庭いっばいに広がっていくのかと思いきや、自分のクラスの先生の周りに、つかず離れずの距離をとりながら広がっているのです。そして体操が始まる時には、担任の先生を中心にしてクラスごとの子どもたちの塊が、ほどよい間隔でできています。ここにも「先生、大好き」という子どもたちの思いが表れていると感じます。自分の最も身近にいて、自分のことを一番わかってくれている先生への信頼感が生まれています。この気持ちは、以後、幼稚園を修了するまでの子どもたちの健やかな育ちを支える最も大切な土台です。子どもたちも教職員も、泣いたり笑ったりしながら共に過ごしてきたこの4カ月の成果が表れています。

私たちはこれから10年先、20年先を見通し、子どもたちが新しい時代をたくましく、しなやかに生き、社会の中でさまざまな人とつながりながら、自分の力を発揮し活躍する人となっていくことを願って日々の保育に取り組んでいます。冒頭に掲げた園の教育目標や各年齢の目標に向かって、無限の可能性をもつ子どもたちのあるがままの姿を尊重しながらも、教育の場として組織的に意図や計画をもった幼児へのかかわりがなされていくよう努めていきたいと思っています。

こみち幼稚園 園長 東藤弥生

フットサル部：大学

昨年度、全日本大学フットサル大会全国大会出場を果たしたフットサル部は、卒業生からFリーグの選手を初めて出しました。本年度は、新しく10人の仲間が加わり、規模も大きくなりました。A・Bの2チームに分け練習をするようになり、競争も激しくなってきました。

今年は、目標をすべての大会での頂点に立つことと定め、今までに培ってきたものに加え、チームとしてまた個人として新しい挑戦をしながら、全国制覇に向けて日々努力しています。

テニス部：大学

テニスは、ラケット・身体の手操作をする基礎技術・試合を組み立てるための応用技術・それを成り立たせるための各1ショットの基本技術と、3つの確かな技術とそれに沿ったメンタル・フィジカルを身につける必要があります。

昨年は、基礎・基本までを繰り返し練習し、土台を築く日々でした。そして、試合での経験値を上げることで自分をつくり上げてきました。

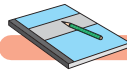
「考えられる人間」「自ら情報をつかみに行く人間」「自分の感覚・言葉でわかる人間」「完全燃焼・完結する人間」を目指し、練習を行っています。今後、キャパシティを自ら広げて確かな一歩を踏みだし、その成果として結果に結びつけていきます。



陸上部：大学

2014年4月3～4日に、ヤンマーフィールド長居で開かれた第62回大阪学生陸上競技対校選手権大会で、7種目優勝の圧倒的な実力により創部3年目で総合初優勝の栄冠を手に入れました。また、女子最優秀選手には砲丸投に大会新記録で優勝した山内愛さんが選ばれました。

2014年5月7～10日、ヤンマースタジアム長居で開催された第91回関西学生陸上競技対校選手権大会では、総合3位に輝きました。次年度は4年生まで揃う完成年度になりますので、さらに上位を目指したいと思います。



陸上部 各種大会記録

大会名	種目	順位	記録	選手名
第98回 日本陸上競技選手権大会	やり投	3位	54m23	山内 愛
第48回織田幹雄記念 国際陸上競技大会	やり投	8位	51m98	山内 愛
	B決勝100H	5位	14秒00	上田 蘭
2014日本選抜陸上 和歌山大会	4×100mR	4位	46秒63	1走 武本 知紘
				2走 中村 水月
				3走 酒井 里桂
				4走 柴崎 玲香
第91回関西学生陸上競技 対校選手権大会	100H	2位	13秒79	上田 蘭
	走幅跳	2位	5m89	末永 成美
	三段跳	1位	12m53	永山 優
	やり投	1位	52m72	脇畑優子
		2位	52m60	山内 愛
	砲丸投	3位	14m49	山内 愛
	円盤投	2位	44m06	山内 愛
第62回大阪学生陸上競技 対校選手権大会	総合	3位	76点	
	総合	優勝	140点	
	女子最優秀選手			山内 愛(砲丸投：大会新記録にて優勝)

教育研究支援センター

海外協定校との交流～2大学訪問

台南應用科技大學



林品章校長、丁知強助理教授とともに記念撮影



映画用の本格的な撮影・編集ができる映像スタジオ

3月10日、大阪成蹊大学の国際交流協定校である台湾の台南應用科技大學を石井理事長、武蔵野学長など5人が訪問しました。

台南應用科技大學からは林品章(リン・ピンシャオ)校長と丁知強(ディン・チーチャン)助理教授をはじめ、国際交流関係の方々が出席され、今後の国際交流について打ち合わせを行いました。

今後、大阪成蹊短期大学とも包括協定を結び、長期交換留学をはじめ、両校共通のテーマでの講演会やワークショップなど、国際交流を進めていきます。

打ち合わせの後には、台南應用科技大學の敷地内を見学。広大な敷地には、寮や靴やバッグを縫製できる実習室や録音スタジオなど施設が整っていました。

6月9日には、台南應用科技大學で芸術学部の糸曾先生が「日本におけるゲーム、アニメーション、漫画といったエンターテインメント業界の概要」についてシンポジウムを実施し、さまざまな形で連携しています。

韓世大學校

韓世大學校との細目協定締結式



石井茂理事長による講演会



交換留学・短期プログラムを推進

4月29日、大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学の国際交流協定校である韓国の韓世大學校を訪問しました。

韓世大學校とは、包括協定を締結していましたが、本格的に国際交流プログラムを推進していくために、今回、交換留学などの学術交流に関する細目協定を結びました。記念品の交換を行い、両大学の親睦・交流を行うための懇談会を行いました。今後、芸術学部やマネジメント学部観光ビジネスコースを中心に交換留学やワークショップなどが進んでいく予定です。

また、石井理事長が、韓世大學校の教員の皆さんと学生に講演を行いました。大阪成蹊大学で改革を進めてきた内容をもとに、“パラダイム改革の重要性”“社会を支えていく人材に必要な視点”について語りました。

訪問後、この秋には韓世大學校の学生1人を短期大学観光学科に9月中旬から1年間、交換留学生として受け入れることになりました。

このように今後も国際交流を推進していきます。

大阪成蹊アート&デザインコンペティション2014

大阪成蹊大学芸術学部では、未来のための人材発見を目的として、大阪成蹊女子高等学校 美術・イラスト・アニメーションコースとの共催による「第4回大阪成蹊アート&デザインコンペティション2014」を開催します。

また、授賞式を11月29日(土)に開催し、受賞作品を学内ギャラリーにて11月29日(土)～12月14日(日)の期間、展示・公開します。



テーマ 未来への発信

テーマから連想するものを題材として、自由に発想した作品を募集

募集期間：平成26年9月1日(月)～10月10日(金)

対象：【高校生の部】

近畿圏内(大阪・京都・滋賀・兵庫・奈良・和歌山・三重)の高校生、及び本学が指定する近畿圏外的美術系専門学校などの高校生(学年は問いません)

【中学生の部】

近畿圏内(大阪・京都・滋賀・兵庫・奈良・和歌山・三重)の中学生

詳細：HP(http://univ.osaka-seikei.ac.jp/newsentry/post_212/index.html)

高校生ファッションデザイン画コンテスト

大阪成蹊短期大学総合生活学科生活デザインコースでは、高校生の皆さんを対象に「高校生ファッションデザイン画コンテスト」を開催します。授賞式は2015年2月の卒業制作コレクションにて開催します(予定)。また、2015年2月16日(月)～20日(金)の期間、受賞作品展を開催する予定です。皆さまのご応募をお待ちしています。

催します(予定)。また、2015年2月16日(月)～20日(金)の期間、受賞作品展を開催する予定です。皆さまのご応募をお待ちしています。

テーマ World Travel

自分の行きたい国や好きな国を選んで、その国の特色(文化など)を参考に自分の個性を表現した洋服をデザインしてください。

応募資格：高校生(個人)

応募方法：B4サイズ用紙にデザイン画を描いて郵送してください。未発表のものに限ります。絵が上手でなくても自分の個性を表現できていれば評価します。

応募期間：2014年7月22日(火)～9月22日(月)

※詳細については「応募要項」をご参照ください。



OPEN CAMPUS

ーオープンキャンパス日程ー



大阪成蹊大学 & 大阪成蹊短期大学

9月 7日 28日
12月 21日



10:00～15:00 まで
(受付開始9:15)

びわこ成蹊スポーツ大学

12月 13日 9:30～15:00
(受付開始9:00)

OPEN SCHOOL

ーオープンスクール日程ー

大阪成蹊女子高等学校

9月 27日
10月 25日
11月 8日 29日
12月 13日 20日

13:30 START